

## 農業経営規模拡大プラン

～鳥取県認証特別栽培を利用した売れる米作り～

日野町認定農業者 松本洋一

### 1 はじめに

美味しくて安心安全なお米を販売したいと考え、日野町の農業の担い手として登録しておりますが、農業者の高齢化等により、農地の作付や維持管理ができない農家が増えており、耕作地周辺においても荒れていく農地の発生を食い止めることが出来ません。

水田の集積は平成19年より日野町 地区にて行ってきましが、平成22年度からは、高齢者の農作業の軽減と耕作地拡大を兼ねて日野町 地区の平坦地の面積が増えて来ています。このような農地を個人的に利用設定し、集積規模拡大をしてきました。

集積した水田において、平成19年より付加価値の高い特別栽培米の栽培を開始し、平成21年度より鳥取県特別栽培農産物の認証、平成23年度にはエコファーマーの認証、平成24年度には県内で個人としては初めての、水田環境特Aの認定を受け、優れた日野の自然環境の中、今後も環境保全型農業による栽培を行いたいと考えています。

また、食味にこだわった付加価値の高いお米の栽培を信条としており、各コンテストへの出品にも力を入れています。「平成20年度食のみやこ鳥取県第6回日野川源流米コンテスト」の優秀賞受賞をはじめ、平成23年度、平成24年度と連続受賞をさせていただくことが出来ました。特に平成24年度は「米・食味分析鑑定コンクール国際大会・都道府県代表お米選手権の部」で鳥取県初となる金賞を受賞いたしました。

平成25年には、鳥取県指導農業士としての認定を受け、新規就農者及び、地域の農業者の先進的、模範的事例となるような営農を目指しております。

平成26年より、中海産の海藻肥料を使用した米づくりに取り組み、中海の藻場の保全、水質浄化、魚介類の増殖にも関連しており、特別栽培農産物の減化学肥料・減農薬と併せて、豊かな里山と海の保全を目的とした循環型農業への一助になると考えています。

以上のことから、今後も増えていく耕作面積を、現状の機材での対応では、生産性、効率性の面から、対応が難しいと考えられます。将来的には15haに耕作面積を拡大し、がんばる農家プラン導入後は、法人化も視野にいれております。そのため農業簿記ソフトを本年から導入し、経営管理の徹底、健全化を目指しております。そのための設備投資として、今回がんばる農家プランを活用させていただきと思います。

## 2 生産、経営の現状、課題等

### (1) 経営の現状

平成 26 年 2 月現在。従業員 1 名を雇用し、私との 2 名で農業に従事しており、平成 21 年 8 月 7 日に日野町の認定農業者に認定され、水稻を中心とした農業経営を営んでおります。

経営内訳は、平成 25 年度状況で水稻 10ha、そば 900a、野菜 40a の合計 1130a 作付けしています。

米の販売状況は JA15,000 kg、個人販売 22,050kg、自家用米 300kg です。

### (2) 課題等

○今後の規模及び受託作業拡大の目標実施に伴う、労働力の確保が必要。また、労働力確保に伴う生産性、効率性を高めるためチャレンジプランで大型農機具を整備した。さらなる規模拡大、生産性、効率性を図るため、これから乾燥調整作業場、大型乾燥機、籾摺り機の導入が必要となっている。

○水稻を中心とした経営展開を図りたいが、市場価値の低下が著しく、また、これによる個別販売農家の増加に伴い、他の商品との差別化による販売拡大が課題となっている。

○農業者の高齢化及び後継者不足により農地の作付や維持管理が出来ない農家が増えており、年々、耕作の依頼の要望が多くなっている。

集落営農の組織化が進まない地域で担い手である私が今まで以上に農地を集積し、農業を守っていかなければならないと考えている。

○受託する農地が平坦地を中心に増やそうとも考えているし、また増えてきている。今ある場所では、刈り取り、運搬作業に移動時間もかかり、適期収穫等もおこなえず、場所によっては品質の低下にもつながったところもあった。

## 3 生産・経営等の改善と効果

### (1) 改善内容、目標

○増える平坦地周辺に、乾燥作業場を設置し、周辺の農地の集積、拡大を行って、作業効率を高め、労働力の軽減、安全、労働時間の効率化を推進する。

○拡大する耕作面積、受託面積に伴い、現行での機材での対応が難しい。生産性、作業効率性を高めるため、適期の刈取り、乾燥、調整のために現所有乾燥機から大型の乾燥機への設置が必要となります。

【現行】 現乾燥機処理能力 (18石×3台=合計54石)

↓

【計画】 現乾燥機処理能力 (18石×2台移設=合計36石、

18石×1台廃棄)

新規導入乾燥機処理能力 (50石×1台+35石×1台=85石)

乾燥機処理能力合計 121石

○平成25年より、日野町産米のブランド化、高収益の確保、地元地域活動団体との連携によるイベント、観光事業の掘り起しを目的とした有限責任事業組合を、他の共同出資者と4名で設立。イベント、ホームページ、ブログ、販促チラシを活用した。これらの情報発信を活用して、日野町産米のブランド化にも取り組んでいます。あわせて自己販売比率を高めていきます。

○後継者育成として、研修生・作業員を受け入れあらたな担い手の育成に貢献する。

○農地の利用集積及び農作業受託の増大

日野町農林振興公社、農業委員会、県、町の協力を得て、農地の利用集積と農作業受託の拡大を図る。また受託作業のサービスの一つとして、刈取作業を日野町農林公社に委託し、乾燥調整作業を自社で行い提供することを考えている。従来であれば、日野町農林公社に刈取り、乾燥調整を委託すると、受け取るお米は、他の農家との混合米となるので、自分の圃場で栽培したお米を消費したいという要望に応えられない。このような、委託農家の要望に柔軟に対応できるような日野町農林公社との業務連携を考えている。

(2) 事業の効果 (地域への波及効果等)

○利用権設定及び作業受託による規模拡大により、町内の不耕作地の発生を防止し、地域の農業振興に貢献できる

○高品質な特別栽培米、食味の高いコンテスト受賞米の販路拡大を推進することにより、地域の農業者の手本となるようにがんばっていきます。

【目標】乾燥作業場を中心として、水稻の規模拡大、作業受託の拡大、適正な農業機材の整備と確保、年間を通じた作業体系を確立し、付加価値の高い特別栽培米による販路拡大により、農業収入の安定を図る。

【経営の概要】

		25年度 (現在)	26年	27年	28年
経営面積		1,130a	1,300a	1,400a	1,500a
内訳	自作地	112a	112a	112a	112a
	利用権設定	1,018a	1,158a	1,288a	1,388a
特別栽培米		1,000a	1,270a	1,400a	1,500a
作物		そば90a 野菜40a	30aそば	-	-
受託作業		280a	510a	510a	510a
内訳	代かき	-	80a	80a	80a
	田植え	-	80a	80a	80a
	刈取乾燥	230a	250a	250a	250a
	乾燥調整	50a	100a	100a	100a

4 具体的な取り組みと役割分担

今後の具体的な取組

項目	H26	H27	H28	実施主体	支援機関
経営農地の拡大	○	○	○	本人	農業委員会
農作業機械の充実				本人	町、県
乾燥調整作業場の充実	◎			本人	〃
乾燥調整機の充実	○			本人	本人
販路拡大	○	○	○	本人	本人

支援事業の内容

項目	H22	H23	H24	H25	H26	負担区分
田植機	●					県1/3、町1/6、個人1/2
コンバイン	●					
精米ユニット (色彩選別機)		○				
乾燥調整作業場					◎	

●はチャレンジプラン支援事業により導入済 ○は6次産業化で導入済